

# あなたはその岩を打て

出エジプト記 17 : 1 - 7

ヨハネによる福音書 4 : 5 - 26, 39 - 42



司祭 ヨハネ 井田 泉

大斎節第3主日

2026年3月8日

聖光教会にて

今日の聖書で、わたしたちはひどい渇きを持つ人々に出会います。旧約聖書・出エジプト記第 17 章では出エジプト後の荒野を旅する民、ヨハネ福音書ではサマリアの女。その人々に神は、イエスはどうか対されたでしょうか。もしわたしたちが渇きを持っているなら、心の奥に救いを求める切なる思いを持っているなら、この人々はわたしたちのことでもあります。

まず出エジプト記 17 章を読みましょう。

「主の命令により、イスラエルの人々の共同体全体は、シンの荒れ野を出発し、旅程に従って進み、レフィディムに宿営したが、そこには民の飲み水がなかった。民がモーセと争い、『我々に飲み水を与えよ』と言うと、モーセは言った。『なぜ、わたしと争うのか。なぜ、主を試すのか。』しかし、民は喉が渇いてしかたないので、モーセに向かって不平を述べた。『なぜ、我々をエジプトから導き上ったのか。わたしも子供たちも、家畜までも渇きで殺すためなのか。』」 17:1-3

水がない。ものすごい渇きのゆえの不満と怒りは、モーセを石で打ち殺そうとするまでに燃え上がりました。モーセは神に訴えました。

「わたしはこの民をどうすればよいのですか。彼らは今にも、わたしを石で打ち殺そうとしています。」

すると主はモーセに、「あなたの杖を手を持って行け」と言われました。その杖とは、羊飼いの杖ですが、同時に、モーセが

神様から授かった杖。モーセの使命を示す杖です。神がともに  
おられることを示す杖です。主は言われます。

「見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つ。あなた  
はその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる。」17:6

今、ここはシナイ山、別名ホレブの山の中です。神は、渇きの  
ゆえにモーセに向けられている人々の不満と怒りを、ご自  
分が引き受けて立つ、と言われるのです。

「『わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つ。あなたはその  
岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる。』モー  
ーセは、イスラエルの長老たちの目の前でそのとおりにした。」

その岩は神のおられる場所です。その岩を、モーセは神が言  
われたとおりに杖で打った。おそらく、そっと打ったのではなく、  
人々の前で激しく打ったのではないのでしょうか。岩にひび  
が入って、その裂け目から水が溢れ出した。その溢れ出た水を  
飲んで、人々も家畜も渇きを潤し、渇き死ぬことを免れて旅を  
続けることができた。こういう出来事です。

旧約聖書では、神はしばしば岩にたとえられます。たとえば  
詩編 18 編です。ダビデの歌とされるものです。

「主はわたしの岩、砦、逃れ場／わたしの神、大岩、避けど  
ころ……。」18:3

このように詩編では繰り返し神が岩として歌われます。わたしたちの危機にあつて、神はわたしたちの揺るぎない土台、足場、守りであることを、わたしたちの信仰の先輩たちは歌ってきたのです。

そこで今の物語の岩についてひとつ想像してみます。神がそこに立つと言われたホレブの岩。モーセが杖で打った岩とは、神様ご自身だったのではないか。渇く人々の苦しみと怒り、モーセの叫びを前にして、「わたしが前に立とう。わたしが責任を引き受けよう。モーセを打つのではなく、わたしを打て」と神は言われたのではないか。神は人々の訴え、要求、不平、怒り全部を引き受けて、ご自分を打たせた。そうしてご自分が傷つかれたその傷、裂け目から、命の水を提供して人々を潤し救われた。ここにはキリストの影があるようにも思います。

ところで新約聖書のパウロがこのように語っています。

「兄弟たち、次のことはぜひ知っておいてほしい。わたしたちの先祖は皆、雲の下におり、皆、海を通り抜け、皆、雲の中、海の中で、モーセに属するものとなる洗礼を授けられ、皆、同じ霊的な食物を食べ、皆が同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らが飲んだのは、自分たちに離れずについて来た霊的な岩からでしたが、この岩こそキリストだったのです。」

コリントの信徒への手紙 I 10:1-4

これは今日の出エジプト記 17 章を元にして語っているのです。「岩が打たれた」ということには触れていませんが、「彼らが飲んだのは、自分たちに離れずについて来た霊的な岩からでした」。ホレブの岩は霊的な岩だった。そして「この岩こそキリストだった」と。

あの水を湧き出させた岩とはキリストだった。キリストが人としてお生まれになったのはずっと後のことですが、実はお生まれになるよりはるか以前から、世の初めからキリストは神ともにおられた。クリスマスにわたしたちはこう聞きます。

「初めに言<sup>ことば</sup>があった。言は神と共にあった。言は神であった。」ヨハネによる福音書 1:1

「先在のキリスト」です。

旧約聖書の出エジプト記 17 章で、岩なる神が——実は「隠れたキリスト」が——打たれて命の水を提供されたのだとしたら、福音書のイエス——「あらわなキリスト」——は打たれて傷ついて命の水をわたしたちに提供してくださった。

イエスは十字架にかけられて死の間際に、「渇く」と言われました（ヨハネ 19:28）。イエスは十字架に釘打たれて身を裂かれた。その体から「血と水が流れ出た」（ヨハネ 19:34）と記されています。

キリストはわたしたちに対する愛のゆえに、わたしたちの渇

きを潤すために、ご自身の身を打たれるままにされた。打たれ、裂かれたキリストの体から命の水が湧き出て、わたしたちを潤し生かす。イエス・キリストの傷から命の水が溢れ出て、わたしたちの渇きと傷を癒すのです。

ここで聖歌 432 番の 2 節を思い出します。

♪ 岩なる主より 湧きていずる 命の水は 流れそそぐ  
平和の海は インマヌエルの 国をめぐるて 清く澄めり  
「岩なる主」とはキリストです。

このイエス・キリストが生前、シカルというサマリアの町でひとりの女の人と出会われました。今日の福音書です。イエスは旅に疲れてひどく渇いて、井戸のそばに座っておられました。正午頃です。そこに、ある女の人が水を汲みに来ました。つらい経験を重ねて、心に深い渇きを持った人でした。

この女の人とイエスの対話は、初めはギクシャクしていましたが、やがてイエスはこう言われます。

「『この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。』

女は言った。『主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。』

ヨハネ 4:13-15

この対話のうちに、イエスから湧き出す水はこの女の人を潤し、この人の内に泉となりました。自分のうちに泉を開かれた彼女は、これまでは人を避けていたのに、今は水がめをそこに置いたまま、町に行き、人々に言います。

『さあ、見に来てください。わたしが行ったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれませぬ。』人々は町を出て、イエスのもとへやって来た。』

ヨハネ 4:29-30

こうして、この女の人によって、多くの人々がイエスを信じるようになりました。イエスから湧き出した水はこの人の中で泉となり、そこから広がって多くの人へと浸透していったのです。

この方イエス・キリストは、わたしたちを愛するがゆえに、十字架の上で打たれ裂かれて、血と水を流されました。この方はわたしたちを愛するがゆえに、ご自身から溢れる命の水によってわたしたちを潤し、わたしたちの中に泉を開いてくださいます。皆さん一人ひとりの中に、命の泉が開かれるのです。

祈ります。

神様、わたしたちの渇きを癒してください。わたしたちが自分のうちに渇きを持っていることをはっきりと教えてください。

主イエスが与えてくださる命の水によって、わたしたちの中に  
泉を開いてください。そうして、わたしたちが生かされるだけ  
ではなく、他の人を生かす者とならせてください。みずから打  
たれることをよしとされたあなたの愛を感謝してほめたたえま  
す。アーメン